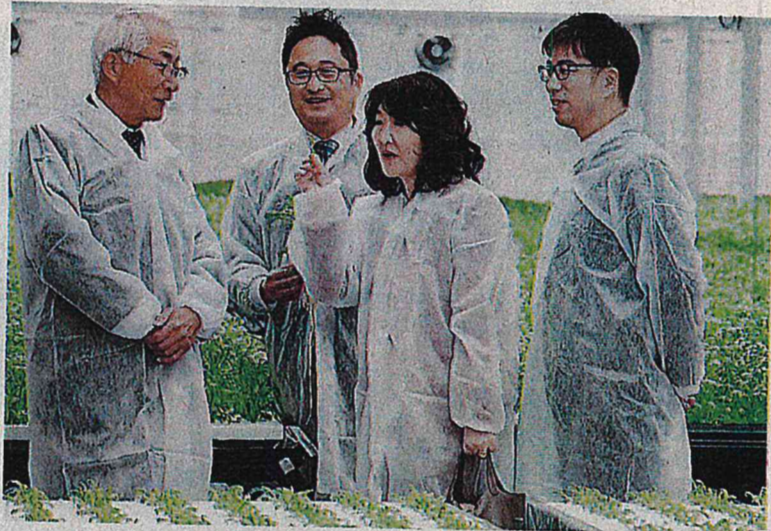


耕作放棄地の再利用視察

養父・戦略特区で片山担当相



片山地方創生担当相(右から2人目)は17日午前、養父市養父市場で関係者から話を聞く。シュンギクの栽培などについて。

片山さつき地方創生担当相が17日、兵庫県を訪れ、

国家戦略特区に指定されている養父市の農場などを視察し、関係者らと意見交換した。片山氏は同市の取り組みについて「パイオニアとして全国から注目されており、さらなる飛躍を期待したい」と評価した。

片山氏は、耕作放棄地の再利用で酒米の栽培が始まった同市内の棚田のほか、企業の進出で葉物野菜の水耕栽培に取り組む「やぶファーム」(同市)などを訪問。シュンギクがハウスで

栽培されている様子や出荷作業などを見て回った。

また、西脇市で播州織の現状なども視察。その後、神戸市内で神戸新聞社のインタビューに応じた。

片山氏は県内でも進む首都圏などへの人口流出を巡り、「中核市や政令市も含めた中核都市圏で防ぐ手だてをテーマに検討している」と説明。産官学連携による雇用創出や最先端技術を活用した都市づくりを進める考えを示し、「兵庫は流出を食い止めなくてはならない場所だ」と強調

した。

一方、政治資金収支報告書の度重なる訂正については「ダブルチェックをするようにした。(きちんとしなくてはならないと)深く自覚している」と述べ、「口利き疑惑」は「その事実がない」と改めて否定した。

(小日向務、井関 徹)

|| NEXTにインタビュー

詳細